

県域 FM 局における災害時の放送内容に関する事例調査

静岡エフエム放送(株) 日下純

静岡大学防災総合センター 牛山素行

1. はじめに

ラジオは、可搬性や機動性に富むことから耐災害性の高いメディアと言われる(森岡 2008)が、放送内容が記録・公開されているわけではないこともあり、災害時に具体的にどのような放送が行われているのかについてこれまで十分には整理されてこなかった。本報告では、静岡県全域を放送エリアとする静岡エフエム放送(愛称 K-mix)を例として、災害時の放送内容を整理し、放送する側から見た課題について検討する。

2. 調査の方法

2.1 調査対象災害・期間について

1年に1~数回程度起こりうる災害をひとつ設定し、K-mixに保管されている過去の放送ライブラリーから発災前後一定期間の放送を調査対象とする。

今回は2014年10月6日8時過ぎに浜松市に上陸した台風18号を調査対象災害とし、県内最初の気象警報発表時が10月5日17:18、県内の警報が最初に解除された時間が10月6日11:58であることから、調査対象期間を10月5日17:00~10月6日12:15とした。

2.2 放送の書き起こしについて

表1で示したように放送はすべて原文のまま書き起こし、放送された秒数をカウントした。ただし集計は5秒単位とし、12秒なら10秒、13秒なら15秒というように近い方に設定した。書き起こしは台風に関する情報のみを行い、その中には東京FMからの全国ネット放送も含まれる。対象となった時間は上記17時間15分のうち77分10秒だった。また情報の内容、情報のソース、情報の有効範囲を放送内容ごとに分類した。

表1 放送書き起こし・分類例

時刻	放送文(放送のママ)	時間(秒)	情報の内容	ソース	時間帯	範囲
9:06	JR東海によりますと、台風18号の影響で東海道新幹線は雨の量が規定値に達したため、静岡県の三島駅と愛知県の豊橋駅の間で運転を見合わせています。また東京駅と新大阪駅の間で、東海道新幹線のぞみ294号など、のぼりと下りの列車あわせて8本を、全区間運休にしたりと発表しました。	25	交通情報	中日新聞		9 全県・隣県

2.3 情報の分類について

情報の内容は、情報の種類と情報ソースの違いによって10に分類し、表2のように便宜的に名付けた。情報の範囲についての分類では、全国、全県・隣県、全県、地域、個人、その他と6つに分類した。全国は日本全国から中部地方などの広域圏まで、全県・隣県は静岡県と隣県、全県は静岡県全域、地域は市町村、個人はそれ以下の規模となる情報である。

表2 情報の内容分類表

分類の名称	内容についての解説	主な情報ソース
気象情報	気象会社から提供される警報、天気予報などの情報	ウェザーニュース、日本気象協会
台風情報	新聞社などから提供されるニュースとしての気象情報	中日新聞社、共同通信社
関連ニュース	工場操業休止など台風関連のニュース	中日新聞社、共同通信社
交通情報	道路、鉄道、空の便を含む交通情報	道路交通情報センター、鉄道各社HP
台風知識	台風の際、気を付けることなど基本的知識	不明
個人の様子	会社が休みなど個人の様子	リスナーメール・twitter
外の様子	外の本々や風の様子など	リスナーメール・twitter、レポート
被害の様子	街路樹が折れているなど被害の様子	リスナーメール・twitter
生活情報	停電などライフラインの情報	電力各社からの情報、HP
避難情報	市町村が発表している避難勧告、避難指示	市町村からの情報、HP

3. 調査結果

3.1 台風情報時間の推移

台風情報時間の量的推移を整理するため、15分(900秒)ごとの秒数を集計し、台風の接近をしめす値として静岡市の気圧と比較した。(図1) 台風の接近に伴い放送時間は増加し15分ごとの最大放送時間は9時~9時15分の435秒に上った。

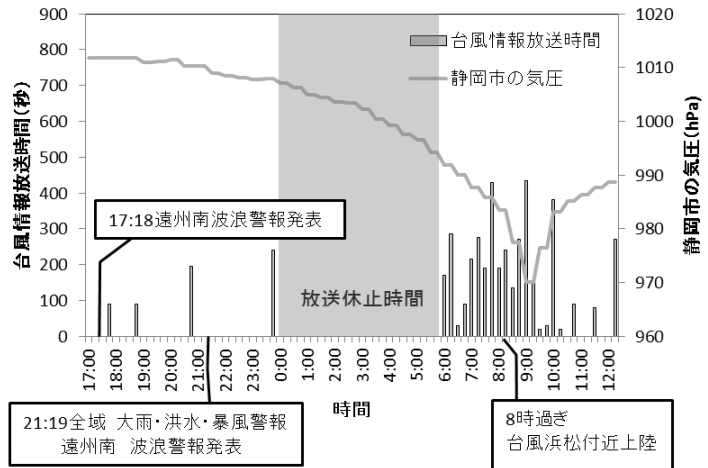


図1 放送時間と静岡市の気圧の推移

3.2 情報構成比

情報内容の構成比を図2で示した。

台風情報と気象情報をあわせた純粋な台風の情報全体の49%と半数程となり、それに続いて交通情報が32%と多くの時間を締めた。被害の様子は1%にとどまった。また、情報の範囲の構成比を図3で示した。県内の情報より広域の、全国の情報、全県・隣県情報は合わせると47%に上った。一方で地域の情報は3%であった。

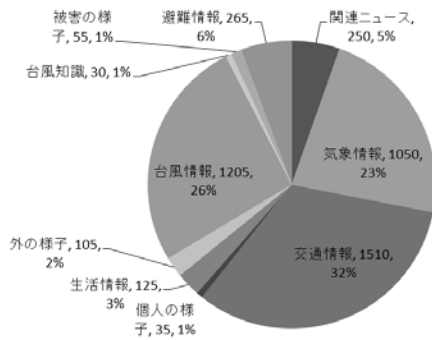


図2 情報内容構成比

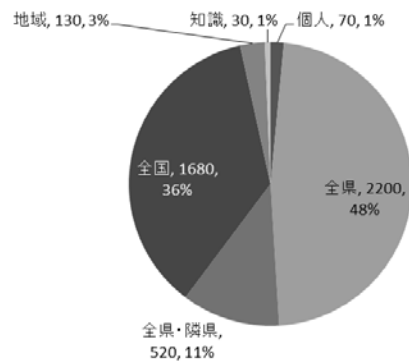


図3 情報範囲構成比

4. 考察

台風関連情報の最長放送時間は、CMや音楽の時間などを含む15分の単位時間中48%の7分15秒にもなり、かなりの時間災害情報を発信されていることが示された。

被害の様子は情報内容構成比では1%に留まった。道路の冠水や土砂崩れによる通行止めなどは交通情報に含まれているものの、純粋な被害情報を収集するソースが存在しないことは課題であると考えられる。

避難勧告等は発令から放送まで平均で47.5分かかっており、即時性にはやや課題が見られた。

気象警報は必ず放送、指定河川洪水予報は一部放送、記録的短時間大雨情報は放送されないなど防災気象情報の放送にはバラつきが見られた。一方で基本的な台風の情報や気象警報は繰り返し伝えられていた。これは聴取時間が短いリスナーにも情報を伝える狙いは満たしているが、ニーズに即しているものであるか、時間の使い方は検討の余地があると言える。

参考文献

森岡千穂ほか:シリーズ災害と社会7,災害情報論入門,2008